

郷土を生かそう

— 明るく安心して暮らせる活気のあるまちづくり —

大田市立福波公民館

1. 福波公民館の概要

大田市温泉津町は島根県のほぼ中央に位置し、東西10.0 km 南北14.2 km 周囲55 km 総面積71,850 km²の町である。総面積の72%は山林で、山間部は高原状で河口付近にわずかに低地を形成している。

平成17年10月1日に旧大田市、旧仁摩町と合併し、新生大田市となった。

平成19年4月1日現在の温泉津町の人口は3,764人で、その内65歳以上の高齢者人口は1,588人、18歳以下の人口は465人となっており、少子高齢化が進んでいる。

福波地区は海岸に面した地域である。山間部と比べ、比較的交通の便は良く、公共施設等も整備されているが、少子高齢化は深刻な状況で、かつて賑わった駅前地域も現在は大半が空き家となり、平成19年4月1日現在の高齢化率は42.12%となっている。

2. 事業の概要

(1) はじめに

テーマ 「総合力を生かしたまちづくり」

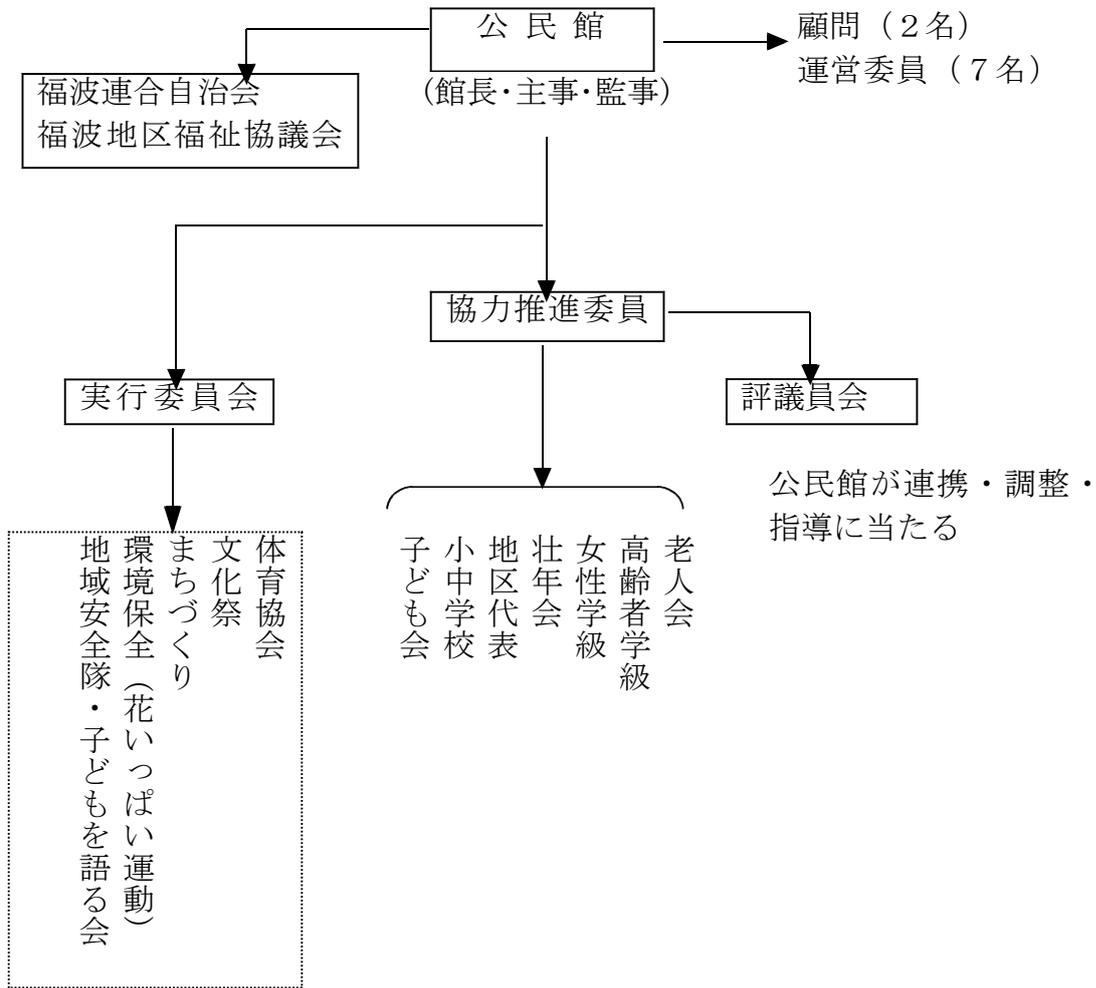
— 公民館は出会いの場 —

誰でもいつでも気軽に出会える場を提供し、異世代が共に汗を流しながら絆を深める。
実証事業のねらい

少子高齢化によって過疎現象が著しく、年々人口も減少の一途をたどっている。それに伴って将来への不安を抱く住民が多くなっている。そこで不安解消の一助として、公民館が中心的役割を担い、各組織、団体等と連携し総合力を生かしてまちづくりを進めていく。そして住民参加の活性化行事を企画し、行事への積極的な参加により連帯意識の高揚を図る。

また、まちづくりについて一人ひとりが自分の問題として受け止め、自分は何ができるかを考え、ボランティアとして積極的に活動する。その中で自分が地域のために役立っているという喜びや成就感、達成感が感じられる。そして、異世代が一体となってさわやかな汗を流すことにより絆が深まり、ひいては地域の活力醸成（活性化）に繋がっていくものと思う。

公民館活動の組織



(2) 具体的な取り組み

①公民館主催行事

- 文化祭 新春交流会 収穫祭
- 軽スポーツ 囲碁大会
- 生涯学習 小学校と高齢者学級との交流会

②まちづくり さつまいも栽培 そば栽培 (全地区民参加) 出会いの場

③環境保全 (花いっぱい運動) 委員 (22名) 協力委員 (8名)

- ア 年間活動計画を作成に基づいて実施
- イ 栽培 (種 小中大ポット移植 プランターに定植 各地区に配置)
- ウ 花の種類 サルビア、マリーゴールド (5月～10月)
- エ 土づくりと消毒
延べ人数 (562人)
- オ 会議 反省会

主な活動の様子

☆世代間交流

あかね学級と小学生との交流。授業に参加し、給食も一緒に食べ、竹細工や昔の遊びをして、ふれあいを広げている。小学校の子ども達との活動は、子ども達の活力をもらい元気ができると好評である。



☆花いっぱい運動

環境保全委員会が中心となり、夏はマリーゴールド、サルビア、冬は葉ボタンなどの季節の花を種から育て、公共施設等へ配置。色とりどりの目を楽しませる花々は、心が和み活力を得ると地域の方々に大変喜ばれている。



☆異世代間交流

まちづくり実行委員会を中心に平成16年度は米作り、さつまいも作り。平成17年度からはさつまいも作りとそば栽培をした。高齢者から子ども達まで、声をかけあいながら一緒に作業をしている。



☆ふれあいキャンプ

小学生を対象に1泊2日のキャンプを実施。自主性を身につけることと、地域の方とのふれあいを目的に実施し、老人福祉施設の夏祭り訪問もあわせて行った。



☆新春交流会

パネルディスカッションや講演会の後、懇親会の中で語りふれあう場を設けている。この交流会を楽しみにしている方々も多い。



☆収穫祭

収穫したお米やさつまいも、そばを使って地域のみなさんと収穫祭を行っている。この収穫祭にあわせタイムカプセル開封・ソフトバレーのイベントを組んだ事もある。



☆そばうち

恒例となったそばうちは、回を重ねる度に腕があたり、高齢者の楽しみの一つとなり、収穫祭にも協力していただいて大変おいしいと好評だった。



3. 事業の成果

公民館をふれあいの場として位置づけ、いつでも、だれでも気軽に立ち寄っていただき交流を深めた。そして、労力奉仕によってさわやかな汗を流し、高齢者の生きがい、健康づくりと出会いの場としての取り組みは大収穫ではなかったかと思う。

行事には積極的な参加を呼びかけ、人まかせにせず、一人ひとりが自分は何ができるか、また何をすべきかを考え、各世代が一体となって取り組もうとする姿勢がみられるようになった。

4. 課題と今後の取り組み

(1) 行事への積極的な参加

壮年世代の行事への積極的な参加

住民の声を反映し、魅力的な行事の企画運営

(2) 意識の高揚

まちづくりについて一人ひとりが自分の問題として受け止める

(3) 地区民の連帯感の育成

(4) 空き家対策の推進

(5) 活動費の確保